

■何を着るかも立派な暑さ対策！■

かつては女性参加者が特定ブランドの服をコミケット参加用の『盛装』にしていたり、最近では普段着の機会のないキャラクターグラフィックシャツをこぞと披露する場だったり、着ていく服にこだわる（あるいはネタを仕込む）というお祭りとしてのコミケットの楽しみ方がある。

また、現場作業着やアウトドアウェア、スポーツウェア、ミリタリーウェアなどで機能性や独自のデザインを追求するスタイルもある。

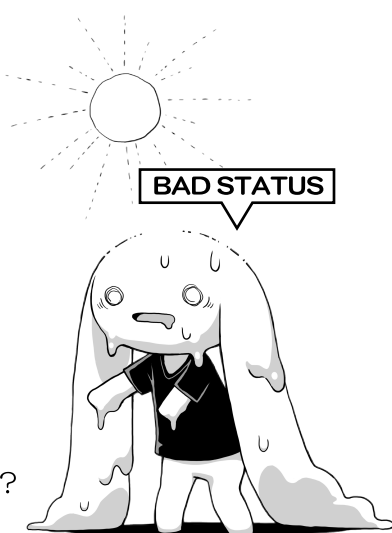
夏でも冬でも、コミケットの環境は多くの参加者の日常とはかけ離れたものだろう。どうせならとそれを非日常を楽しむ機会にするのもいいが、普通に参加するとしても環境に合わせた最適化は行った方が良さそう。快適さが向上するということは、それだけ体力の消耗を抑えられるということだからだ。

●コミケットに『綿100%』は100%不向き

普段着としては着心地良くポピュラーな綿100%の衣服は、ことコミケット用としては、男性用女性用、下着、肌着、トップス、ボトムス、靴下いずれにおいても全くオススメできない。

その理由は、乾きにくいという一点に尽きる。『夏だから濡れても寒くないし、すぐ乾くだろう』と思うかもしれないが、汗であれ万一の雨であれ、一度濡れたら簡単に乾かない生地は、汗の蒸散を妨げ、逆に冷房の効いた場所に入れば必要以上に身体を冷やして体温調整を妨げ、皮膚を湿って柔らかくしてしまうことで靴擦れやベルト擦れなどの擦れ傷ができやすくなるといった不快さの上に、雑菌が繁殖しやすく臭いまで発するようになると全く良いところが無い。

その上、薄手のコットン生地は紫外線をほとんど防げないため、たとえば薄手のTシャツ1枚で長時間直射日光下に居ると服で覆われているはずの範囲まで日焼けしてしまっていた。ということにもなりかねない。ここまで不向きな素材を敢えて着ていく理由があるだろうか？



装備：黒い綿の服

撤退
救護室

【体温】が上昇しました。
【熱中症】が付与されました。
【体力】が低下しました。
【行動力】が低下しました。

●色にだって色々意味がある

『白に比べて黒は熱を集めやすい』というのは小学校の理科で習うことなので一般常識だろう。しかし、コミケットの入場待機列を見ると驚くほど黒い服を着た参加者が多い。閉会近くには黒い生地から白く汗由来の塩が浮いているのも珍しくない光景だ。

確かに紫外線を防ぐ効果は黒が一番高いが、ただでさえ暑いのにわざわざ更に熱を集めて体感気温を上げることはない。日焼防止と熱中症リスクを天秤にかけるのはあまりに割に合わないだろう。

男女を問わず、短時間でも屋外待機が予想されるなら（14:00以降あたりに来場すればほぼ入場待機は無いが、目当てのサークルや企業により購入待機はありうる）、せめて黒（濃色系）の衣服は避けるか帽子や日傘や遮光ストールなどを用意して直射日光だけでも直接浴びないようにしてほしい。午前でも午後でも、頭部や素肌に対しても直射日光を浴び続けるのは日焼けと体温上昇による熱中症の危険が高まることに変わりはないのだ。

●賢く遮光・遮熱・蒸散速乾

綿100%がコミケット環境に不向きなら、何が適しているのか？

すっかり猛暑酷暑が当たり前になったお陰で、この時期になれば衣料品売場には『速乾』『涼快』『防臭』などの機能を謳う化繊素材の肌着や衣服靴下、『UVカット』『遮熱』などの機能を謳う上着類が数多く販売されているはずだ。細かい差異は色々あれど、いずれであれ綿100%のものよりはるかにコミケットの環境に適しているのは間違いない。

価格も年々下がって入手しやすくなっているの、思い切って上から下まで一式導入してみてもいいかだろう？

ちなみに、衣服にしろ日傘にしろ、紫外線遮断率は1%でも高いものを選ぶと良い。

